



「東京新幹線車両センター

1月26日 新幹線統括本部へ提出

業務執行体制の見直しについて」に関する申し入れ

申し入れ項目

1. 東京新幹線車両センターの業務執行体制を見直す目的を具体的に明らかにすること。
2. 提案箇所体制について、一般変形等1増、一般交代1減の根拠を具体的に明らかにすること。なお、安全で質の高い新幹線車両を提供するために、専門的知見を有したメンテナンスできる要員を確保すること。
3. 各新幹線車両センターの仕業検査本数を具体的に明らかにすること。また、東京新幹線車両センターにおける日勤者が施工する仕業検査本数、および夜勤帯で施工する仕業検査本数を示すこと。さらに、最繁忙期においても施工できる体制を構築すること。
4. 事故予備車の考え方を具体的に明らかにし、日勤帯に仕業検査施工可能である根拠を示すこと。また、輸送障害時における事故予備車の仕業検査の対応方法を具体的に明らかにすること。
5. 異常時において急遽車両センターへ取り込んだ場合や臨時修繕が輻輳した場合、日中帯の仕業検査をどのように施工するのか考え方を示すこと。
6. 日中帯の夏季の仕業検査については高温の中で行うため抜本的な対策を講じること。
7. 本施策に伴い異動が発生するのか明らかにすること。また、異動が発生する場合は、丁寧に面談を行い、本人の希望を尊重すること。
8. 作業ダイヤについては、現場の意見を反映させより働きやすいものとする。

東京新幹線車両センターは新幹線輸送の「扇の要」であり、安全・安心・安定輸送とサービス品質の維持・向上が実現できる体制確保を求めます!



申
19
号



「東京新幹線車両センター業務執行体制の見直しについて」に関する申し入れ

【新幹線統括本部】 団体交渉開催! その1

1. 東京新幹線車両センターの業務執行体制を見直す目的を具体的に明らかにすること。

(回答) 新幹線車両のメンテナンスを持続的に行い、新幹線輸送をお客さまに提供し続けるため、経営環境や時代の変化にあわせサステナブルに業務運営を行うことを目的に体制を見直すものである。

- 組合
- ▶ 体制見直しの目的を明らかにすること。
 - ▶ 見直しのメリットは何か明らかにすること。
 - ▶ 東京新幹線車両センターの役割は変化するのかが明らかにすること。
 - ▶ 移動禁止表示に関わる取扱いミスや事象が点呼で周知されず、原因究明や再発防止対策がされなくなっている。

- 会社
- ✓ 社会環境の変化により、生産年齢人口の減少に伴うものや、作業検査の有効期間の変更により一定数削減ができるからである。
 - ✓ 現在員はすぐに減少しないため、教育の時間や新たなチャレンジができると考えている。
 - ✓ 変化はしない。首都圏の輸送の要として重要である認識に変わりはない。
 - ✓ 必要な指導を行っていく考えである。

2. 提案箇所体制について、一般変形等1増、一般交代1減の根拠を具体的に明らかにすること。なお、安全で質の高い新幹線車両を提供するために、専門的知見を有したメンテナンスできる要員を確保すること。

(回答) 業務に必要な要員は確保していく考えである。

- 組合
- ▶ 一般変形等1増、一般交代1減の根拠を具体的に明らかにすること。
 - ▶ N番で1増、技管で1増、計2増なのを明らかにすること。
 - ▶ 業務研究やイベントで超勤や休日出勤が発生していることから解消すること。
 - ▶ 外勤Cを日勤にできる根拠を明らかにするとともに、庫の状況を把握するためにも常に外勤を配置すること。

- 会社
- ✓ 変形15形が2減、7形が3増、交代が1減となり、結果として変形が1増、交代が1減である。
 - ✓ 出面としてはそうである。
 - ✓ 業務研究等は可能であれば日勤でやるのが望ましい。
 - ✓ 夜間帯は日常清掃や作業があるのでは臨修班が補助を行う。日勤帯は入区本数が少ないため1人で対応できる。補助が必要かどうかは業務量によるが、いろいろな意見を聞き、必要な変更については対応している考えである。

3. 各新幹線車両センターの作業検査本数を具体的に明らかにすること。また、東京新幹線車両センターにおける日勤者が施工する作業検査本数、および夜勤帯で施工する作業検査本数を示すこと。さらに、最繁忙期においても施工できる体制を構築すること。

(回答) 作業検査については、ダイヤ設定および車両運用等により計画するものである。なお、必要な作業検査の体制は確保する考えである。

- 組合
- ▶ 各車両センターの作業検査の内訳を明らかにすること。
 - ▶ 日中帯、夜間帯の編成、作業検査本数を明らかにすること。
 - ▶ 最繁忙期の考え方を明らかにすること。
 - ▶ 超勤前提で作業検査は行わないこと。

- 会社
- ✓ 東京新幹線車セ7本、小山新幹線車セ5本、新幹線総合車セ8本、山形新幹線車セ3本、新庄統括センター2本、盛岡新幹線車セ4本、盛岡新幹線車青森派出4本、秋田新幹線車セ6本、新潟新幹線車セ6本、長野新幹線車セ4本である。
 - ✓ 日中帯は2本程度(基本は予備編成U、F、U+Z)、夜間帯は最大7本(U単1本、J1本、L1本、F3本、U+Z1本)である。異常時等はこの限りではない。
 - ✓ 基本と考えは変わらない。
 - ✓ 超勤もあり得るが、夜勤者で対応する考えである。

4. 事故予備車の考え方を具体的に明らかにし、日勤帯に作業検査施工可能である根拠を示すこと。また、輸送障害時における事故予備車の作業検査の対応方法を具体的に明らかにすること。

(回答) 事故予備車両については、会社間の協定に基づき所管するエリア内に配備することを基本としている。なお、輸送障害時においては状況に応じて適切に対応していく考えである。

- 組合
- ▶ 事故予備車の考え方を明らかにすること。
 - ▶ いつでも出区できる、停電しない、訓練に使用しないという考え方は変わらないのか。
 - ▶ 作業検査中に急遽出区する場合の考え方を明らかにすること。

- 会社
- ✓ 北陸新幹線金沢開業時に事故予備車という考え方ができた。協定書には詳細は書かれていないが各1編成配備している。
 - ✓ これまで通り、考え方には変化はない。
 - ✓ 作業検査中でも乗務員操配の間で作業は終わるとは考えるが、作業の進捗状況によって、作業検査を途中で打ち切るか、最後まで完了させるかはケースバイケースであると考えている。

申
19
号



「東京新幹線車両センター業務執行体制の見直しについて」に関する申し入れ

【新幹線統括本部】 団体交渉開催! その2

5. 異常時において急遽車両センターへ取り込んだ場合や臨時修繕が輻輳した場合、日中帯の仕業検査をどのように施工するのか考え方を示すこと。

(回答) 状況に応じて適切に対応していく考えである。

組合

- 仕業検査の優先順位を明らかにすること。
- 主休日は要員が少ないので現場では不安の声が多く出ているが対応可能か明らかにすること。

会社

- ✓ 状況によりケースバイケースではあるが、作業内容、構内ダイヤをみて判断することになる。状況により夜間帯に作業することもある。
- ✓ 仕業検査の有効期間が延びたこともあり、調整することもある。法定検査である仕業検査であるので、その度合いをみて判断することになる。

6. 日中帯の夏季の仕業検査については高温の中で行うため抜本的な対策を講じること。

(回答) 作業環境の改善に向け、引き続き取り組んでいく考えである。

組合

- 夏季の暑さ対策について考えを明らかにすること。
- 夏場の日中帯の仕業検査は、高温のなか命の危険もある。現場の状況を把握すること。
- 科学的な指標として「WBGT」等を用いて対策を行うこと。

会社

- ✓ 状況については把握しており、設備投資を考えなくてはいけないが、今すぐに抜本的な解決は難しいと考えている。現時点では空調服等に対応していく考えである。
- ✓ 現場に行き状況を把握していく考えである。
- ✓ 引き続き状況は把握し対応していく考えである。

命の危険もあることから抜本的な解決を求めろ!



7. 本施策に伴い異動が発生するのか明らかにすること。また、異動が発生する場合は、丁寧に面談を行い、本人の希望を尊重すること。

(回答) 社員の運用については、任用の基準に則り取り扱うこととなる。

組合

- 本施策により異動は発生するのか明らかにすること。
- 面談等で本人希望を把握していくことによりよいのか明らかにすること。

会社

- ✓ 本施策に伴う異動は現時点ではないと考えている。これまで通りのキャリアパスに則った運用をしていく考えである。
- ✓ 管理者とのコミュニケーションを取りながら進めていくことにはこれまでと変わりはない。

8. 作業ダイヤについては、現場の意見を反映させより働きやすいものとする。

(回答) 作業ダイヤについては、必要な業務等を勘案したうえで設定するものである。

組合

- 現場で働く社員の意見を聞きながら作業ダイヤに反映させること。
- 融合の名のもと詰所が移動すると言われている。詰所新設はコストもかかり、メリットは何もない。
- 検証を行い、作業ダイヤの変更は出来るのか明らかにすること。

会社

- ✓ 意見については聞いていくが、会社としては必要な作業ダイヤについては示していく考えである。
- ✓ 直接対面できることがメリットと考えている。
- ✓ 引き続き状況を把握して判断していきたいと考えている。

職場環境の改善は会社の責務であることから社員の意見をきちんと聞くべきだ!

施策実施後は検証活動を行い、首都圏における新幹線の要として、安全で質の高い新幹線車両が提供できる体制と働きがい、生きがいを実感できる職場をめざします!

